

「学内ワークスタディとして働いた二年間を振り返って」

私は現在図書館で学内ワークスタディとして本の貸出・返却作業、新刊図書のポスター作りやPOP作成などの業務を日々行っています。もともと経営に興味があり、この仕事をするなかでも図書館を利用する人たちの目に留まるようなポスターやPOP作り、普段利用しない人でも興味を持ってもらえるような企画はどんなものか、利用者の目線に立ったサービスとはどんなものかなどといったことを考えながら働いていました。なかでも今年は、年に一度行う学内ワークスタディが主体の展示企画でリーダーを務めました。今回実施した企画では実現に向けてどんな展示をするのか、どのような内容であれば図書館を利用する方々に興味を持ってもらえるのかを話し合いながら模索し、結果多くの人に興味を持ってもらうことができ非常にやりがいを感じることができました。

図書館司書の資格取得も同時に目指していた私にとって、図書館での仕事は実際の現場での学びがあり、とても貴重な経験となりました。当初は声も小さく仕事もあまりできませんでしたが、学内ワークスタディでの二年間で得た学びや経験は自分自身の成長や自信にもつながりました。ここで培った学びや経験を今後の学校生活や就職活動で活かしていきたいと思えます。

(学内ワークスタディ2年)

【令和5年度 主な行事・展示】

- 2023.10.18(水) 講演会「小説家に大切な3つの“あい”とは～『さらさら』を中心に～」
- 2023.10.23(月)～ 『チョッチャン歌留多』と関連図書の展示
- 2023.11.13(月)～1.31(水) 図書館ワークスタディ企画展示『16のミラーブック—16タイプ別性格診断で新たな本と出会う—』
- 2023.12.1(金)～12.20(水) どさんこ絵本作家あべ弘士さん『あてっこ どうぶつ ずかん だれ』巡回パネル展in北海道
- 2023.12.1(金)～12.8(金) 滝川保健所連携事業「12月1日 世界エイズデー」ミニ展示
- 2024.1.17(水) 初心者大歓迎! ボードゲーム体験会in図書館



「16のミラーブック」展示の様子

【図書館からのご案内】

- 参考図書や館内閲覧に指定されている本は貸出ができません。
 - 入館する際や貸出手続きの際に学生証・利用証が必要となります。忘れずにお持ちください。
 - 延滞している場合には、図書の貸出はできません。また、延滞した際には、すべてを返却し終えても、延滞した日数分貸出不可となります。
- ※詳しくは利用案内をご確認ください。

【発行】

國學院大學北海道短期大学部図書館
滝川市文京町3丁目1番1号
TEL 0125-23-4111 / FAX 0125-23-5590
<https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/>

- 開館時間 月一金 9:30—18:30
 - 休館日 土・日・祝日、大学指定の休日
- ※都合により、開館日や時間を変更する場合があります。

國學院大學北海道短期大学部は、高校生以上の地域の皆様に図書館を開放しています。利用ご希望の方は、運転免許証など、ご自身を証明できるものをお持ちのうえ、カウンターで利用登録をしてください。詳細は、図書館にお尋ね下さい。



図書館だより



知の銀河系

最近、読書や図書館に関する書籍を読んでいたのですが、「本を読む」とはどのような意味があるのか、改めて考えさせられる一冊に出会いました。書名は『図書館人への言葉のとびら』(2022.9.17 内野安彦 郵研社)。

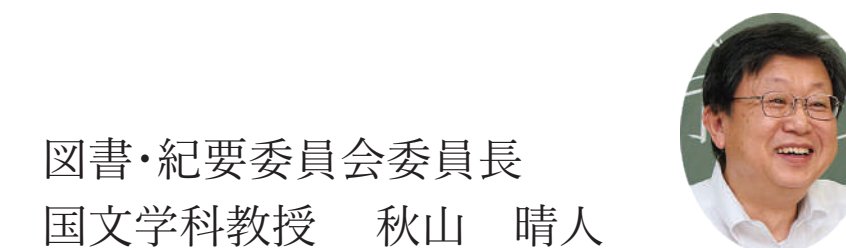
この本の著者はかつて公立図書館の館長を務め、その後、筑波大学の博士課程でも学ばれた方で、本書はこれまでの多くの講演会や研修会で話された内容をまとめたものです。講演会などでは先達の卓見を紹介することもあり、そのような言葉を講演の資料に記すことを常としてきたとのこと。

本書は読書や図書館に関わりのある人々の言葉や新聞に掲載された記事などが紹介され、それについてご自身の見解を述べるような構成になっています。その最初の内容は「知の銀河系ともいえる膨大な量の書物が生まれた源泉」というタイトルで始まり、紹介されている先人の言葉は以下のようなものです。

古今より人は書を通して知識を得てきた。十五世紀半ばの印刷術の発明並びに十九世紀から本格化した公教育の普及とによって、誰もが時間と空間を超えて書を読むことができるようになった。その中で、読書を糧に新たな知識を創造し、それを書として世に出す者も増えてきた。知りたいと思う欲求と知らせたいと思うその絶え間ない繰り返し、知の銀河系ともいえるような膨大な量の書を生み出した。

近年、コンピュータ・通信技術の著しい発達により、知る範囲は一段と広がってきた。さらに時代は今や、誰もが、自らの知らせたい欲求のままに、誰かに何かを容易に知らせることが可能な世になりつつある。

このような時代にあっては、広く教養を身につ



図書・紀要委員会委員長
国文学科教授 秋山 晴人

け心を豊かにするために書を読むのは当然であるが、その上に知らせるための糧を得るために書を読むことも求められている。その際に、読む者の魂をふるわせるような創造的なものを知らせたいと願うなら、各自は、専門に関わる書のみならず、広く多方面に渡る書を読む必要があるだろう。それは「知の銀河系」の一部を各自の中に移植し、それぞれの知の小宇宙をつくることである。やがてその中から、夜空に星座が見えるように、新たな知の体系が忽然と浮かんでくるであろう。

(吉田政幸「知の銀河系」刊行にあたって『知の銀河系』図書館情報大学1998 3～4頁)

図書館情報大学は1979年に設置され、2002年に筑波大学と合併した国立大学で、『知の銀河系』は図書館情報大学の開学20周年を記念して編まれた講演録の叢書です。上に引用した部分は当時の学長である吉田氏の言葉です。

ここで紹介されている上記の言葉で私が特に惹かれたのは、後段の「読む者の魂をふるわせるような創造的なものを知らせたいと願うなら…専門に関わる書のみならず、広く多方面に渡る書を読む必要があるだろう。…それは…それぞれの知の『小宇宙』をつくること」という部分です。このことはまさに大学での学びそのものの言葉だと思いました。大事なことは、読書によって、知識の量はもとより、それを糧として一人一人が新しいものを生み出すこと、他に発信していく力を蓄えること、そしてそのようなプロセスに喜びを感じることはないでしょうか。

今回読んだ本を通して、大学時代に書を読むことの意味を、今一度皆さんに考えていただきたいと強く感じた次第です。

【閲覧席のリニューアルについて】

経年劣化のため、図書館2階の机・椅子をリニューアルしました。是非ご利用ください。



私たちの 読むヨム

図書館というところ

国文学科1年 田上 勝翔

私は、大学生になり中・高時代を振り返ったときに、本を自分から進んで読んだということはあまりない。学校で朝自習に本を読んだり、国語の授業で図書館を利用したり本を借りたりなどの機会がないと本を読まなかった。

小学生時代を思い返すと、図書館に行き、本を読んだり、借りたりしていた。その理由として挙げられるのは、当時、小学校全体で読書量を上げようという取り組みがされていた。取り組みの中で、一番効果があったと思えるのは読書数をクラスで競うというものだ。本を読む手段として、イベントなどは有効だと思う。

大学生になった現在、私は国文学科に所属しているが、一年生の当初本を全く読まなかった。図書館の利用も課題の際に利用する程度であった。スマホで調べたいことがすぐ分かったり、本が手軽に見られたりす

ることも関係しているだろう。

しかし、ある授業で図書館でないと分からない課題が出るようになった。また、論文を探したり、自分の興味がある分野の本を探したりするようになった。大学に入り自分の興味のあることが明確になったからだ。調べる手段の一つとして図書館がある。図書館は分類が丁寧にされており、キーワードで検索もでき、自分の興味のある本を探しやすい。活字本はスマホと違い他の情報が入らないため集中できる。ネットで調べたことは信憑性が低いものが多々ある。

大学生になり、これまでの遊びなどの延長線の図書館利用から、自分の学修手段の一つへと図書館は変わった。図書館の使用目的は多種多様だが、私たちの生活を豊かにする施設であることは間違いないと考える。

図書館で過ごした時間を経て

総合教養学科1年 紺野 歩佳

國短の図書館は、とても心地よい場所です。静寂なうえ、個別のスペースがあるので、読書をするのも勉強をするのも集中しやすいです。私が今年、簿記の試験に合格できたのは、図書館のおかげではないかと思っています。ただ、國短の図書館の魅力はそれだけではありません。

今年度、國短の図書館では「MBIT(マイヤーズ=ブリッグス・タイプ指標)」に関する企画が行われました。MBTIは2つの相反する要素を持つ4つの軸の組み合わせで人の性格を分類するもので、自己理解や他者理解、チームビルディングなど、教育やビジネスの場などで活用されています。

企画の中で、國短の先生方のMBITが発表されました。先生方のMBITがわかったことで、先生方の新たな一面が見え、先生方が身近に感じられました。また先生方のMBITは、先生方の教育に対する考えを

表しているように思え、講義の意図がわかった気がし、それまでより講義が楽しくなりました。

友人たちと自分自身それぞれMBIT診断をしました。診断結果の詳細を見ると、まるで自分のすべてが書かれているようなものでした。外交的だと自他ともに認められていた友人は、実は内向的で、アウトドアよりもインドア派だったなんてこともわかりました。その後、友人たちに私のMBIT診断をしてもらいましたが、その診断結果は異なりました。その違いはとても面白かったです。さらに、自分はどう見られ、思われているのか、自分からは見えない、客観的な部分が分かり、自己理解が深まりました。

國短の図書館によって、私は日々の学びを深め、友人と交流ができ、自分を見つめることができました。今後も図書館を活用していきたいです。

ゆるやかに時間が流れる場所

幼児・児童教育学科1年 永井 梁太郎

「図書館」という場所には、どのようなイメージがあるでしょうか。私が持つイメージは、「憩いの場」というものです。自分の好きな小説を探してゆっくり読むのもよし。料理や裁縫など、自分の趣味に関する本を借りて持ち帰るのもよし。子どもたちに絵本や紙芝居の読み聞かせをしたって良いし、本に限らず懐かしい映画や多くのジャンルの音楽を選び自分の思うままに時間を過ごすことができる場所だと私は思います。どうしても、本、読書という単語を聞くと、静かに本を読むシーンやお堅いイメージを持つ人が多いようにも思います。ですがいざ図書館に入ると、柔らかく温かい雰囲気迎え入れてくれます。私はよく、折り紙の折り方が書かれている本を借りたり、DVDを見たりしていました。図書館の雰囲気が心地よく、つい朝から夜ま

で居座ってしまうほどには、図書館がお気に入りの場所でした。

そして、私の地元の図書館は、地域の方々の活動の場にもなっていました。様々な作品の展示会があったり、会議室などの部屋を活用して地元の学生たちを呼んでの多くの交流会などが行われたりしていました。この記憶が強く残っており、図書館は憩いの場なのだと思うようになったのです。

仕事や学業で疲れた時やあてもなく時間が流れているとき。そんな時こそ、少しだけでも図書館に足を向けてみるのはどうでしょうか。家とはまた違う、温かく不思議な、日常のそばにあるけれど非日常的な時間に浸ることができる。図書館には、そんな不思議な魅力があるように思います。

令和5年度 蔵書数(令和6年3月31日現在)

合計	和書	洋書	視聴覚
86,283冊	78,240冊	6,903冊	1,140点

和書881冊、洋書4冊、視聴覚資料7点を新たに受け入れ、令和6年3月31日までの蔵書数は上記のようになった。

和書の内訳は、固定資産図書46,422冊、教育研究図書31,818冊。洋書は、固定資産図書5,424冊、教育

研究図書1,479冊。視聴覚資料は、固定資産196点、簿外944点となった。

また、年度末に5年間所在が不明である紛失図書や複本、書庫狭隘化のため不要となった図書99冊を除籍した。

本学に所蔵していない本を読みたいときは、次の方法があります。

①購入希望(リクエスト)を提出する

本学学生・教職員に限りリクエストを受け付けております。ただし、すべての本が入るわけではございませんので、ご了承ください。また、入るまでに時間がかかることがあります。

②他館から取り寄せる

道立図書館などから取り寄せて借りることができます。

③公共図書館・大学図書館に行く

学生証・身分証明書・紹介状などが必要となる場合があります。

※本学学生・教職員に限り、複写物の取り寄せサービスも行っております。詳細は職員までお尋ねください。

